

Chapter 1 The Future Is Yours (pp. 8-19) CAN-DO リスト

1. 内容理解 (Content Construction)

- ・キャンベル氏の生い立ちを理解することができる。【Part 1, 2, 3】
- ・「潜水艦のハッチ」がどのような意味で使われているかを考える。【Part 1, 4】
- ・文化的価値観の違いについて認識できる。【Part 2】
- ・特定の国について学ぶときは、その国の言語・歴史・文化を知る必要があることを理解する。【Part 3】
- ・日本の文化について思考する。【Part 3】
- ・自分の将来について考えられる。【Part 4】
- ・キャンベル氏のアドバイスを理解することができる。【Part 4】
- ・本文の内容を理解し、RECAP SHEET を完成させることができる。【R&R-2】

2. 言語リソース (Language Resources)

2.1 文法 (Grammar)

- ・動詞の単純形, 進行形, 完了形 【GC-1】
 - 1.1 時制を理解し、それらが用いられた文の意味・構成を理解することができる。
 - 1.2 時制を理解したうえで、イラストが表す状況を適切に表すことができる。
- ・動詞＋名詞, 動詞＋前置詞＋名詞, 動詞＋形容詞 【GC-2】
 - 2.1 目的語, 前置詞, 補語の役割と機能を理解し、文構造を捉えることができる。
 - 2.2 英語の文構造を理解したうえで、自分が普段やっていることを適切に表現することができる。

2.2 語彙 (Vocabulary)

- ・次の語彙をコミュニケーションにおいて使うことができる (発信語彙)。
名詞: specialist, literature, emergency, submarine, imagination, knowledge, opportunity, researcher, career
動詞: chat, serve, hate, dislike, refuse, grasp
形容詞: raw, curious
副詞: gradually, seldom, seriously, truly
- ・上記の語彙に加え、次の語彙の意味を理解することができる (受容語彙)。
名詞: scholar, hatch, tale
動詞: pursue
形容詞: uncooked, adventurous
副詞: obviously
- ・自分の興味関心や将来に関連する語彙をネットワークとして整理し、意味を理解することができる。【VN】

2.3 慣用表現 (Formulas)

- ・次の慣用表現の意味を理解し、使うことができる。
機能表現: feel like, even if...
文法構文表現: say to oneself, allow O to do
句動詞: without doing, be sure to do
副詞表現: for a while, in fact, thanks to..., in the end
動詞表現: end up doing, run into..., give...a try, do research, open up...

3. 5領域におけるタスク・ハンドリング (Task-Handling in Five Domains)

3.1 聞くこと (Listening Domain)

- ・本文に関する英文を聞き、正誤を判断することができる。【R&R-1】

3.2 読むこと (Reading Domain)

- ・キャンベル氏の生い立ちを正確に捉えて読むことができる。【CC】
- ・場面ごとのキャンベル氏の経験を時系列順に整理して、読み取ることができる。
- ・理解が難しい箇所を、文脈や背景知識を活用し、推測しながら読むことができる。

3.3 話すこと (発表) (Spoken Production Domain)

- ・本文の内容を理解し、RECAP SHEET を完成させ、発表することができる。【R&R-2】
- ・RECAP SHEET を用いながら、自分の言葉で本文内の良かったところを共有できる。【R&R-3】
- ・自分の将来の夢をグループ内で共有できる。【MIY-3】

3.4 話すこと (やり取り) (Spoken Interaction Domain)

- ・Think-Pair-Share の問いに対して、自分の言葉で意見を述べながら、短い会話を行うことができる。【TPS】

3.5 書くこと (Writing Domain)

- ・自分の将来について、自分のことばで書くことができる。【MIY-2】
- ・興味・関心に関する語句を理解しながら、穴埋めを行うことができる。【VN】

3.6 領域統合 (Integrated Domains)

- ・将来の目標・夢についてグループで協働してディスカッションを行い、最後にプレゼンテーションで発表することができる。【MIY-2, 3】

4. 学習への向き合い方と学習管理 (Attitude & Learning Management)

- ・教師の発問に対して積極的に反応している。
- ・授業中に大きな声で気持ちを込めて音読をしている。
- ・本課で学習した文法や語彙・慣用表現を、コミュニケーションにおいて積極的に活用しようとしている。
- ・文化に関する語彙や慣用表現を自分で調べ、語彙力の拡充を図っている。
- ・本課の新出語彙・表現を繰り返し読んだり書いたりして、定着を図っている。
- ・本課の全文を10回以上音読している。【通読用本文】
- ・ペアワークやグループワークに積極的に参加し、責任をもって自分の役割を果たしている。
- ・授業の振り返り (リフレクション) を行い、学習の成果と課題を明確にしている。
- ・PDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルを通して計画的に学習を進めている。
- ・疑問点を放置せず、先生に質問をしたり、学習書を活用したりして解決している。

略語: GC = Grammar for Communication; VN = Vocabulary Networking, MIY = Make It Yours; R&R = Recap & Retell; CC = Comprehension Check; TPS = Think-Pair-Share

Chapter 2 The Power of Design (pp. 20-33) CAN-DO リスト

1. 内容理解 (Content Construction)

- ・どこで話されているのかを理解できる。【Part 1】
- ・デザインの定義を理解できる。【Part 1】
- ・製品デザインの外観と機能の関係についての説明を認識できる。【Part 2】
- ・人間の行動に対するデザインの効果についての説明を理解できる。【Part 3】
- ・ユニバーサルデザイン (UD) の例示を踏まえ、説明を理解できる。【Part 3】
- ・デザインの社会的影響を考えることができる。【Part 4】
- ・身の回りのデザインに着目し、そのデザインが持つ意味を考えることができる。【Part 4】
- ・本文の内容を理解し、RECAP SHEET を完成させることができる。【R&R-2】

2. 言語リソース (Language Resources)

2.1 文法 (Grammar)

- ・時・条件・理由を示す接続詞【GC-1】
 - 1.1 接続詞 when, if, because の機能を理解し、それらが用いられた文の意味を理解することができる。
 - 1.2 接続詞 when, if, because を用いて、関連する文と文を接続することができる。
 - 1.3 接続詞 when, if, because を適切に使って、イラストの内容を表すことができる。
- ・V+O+do [形容詞]【GC-2】
 - 2.1 知覚動詞・使役動詞がどのような役割を持つかを理解し、それらが用いられている文の意味を理解することができる。
 - 2.2 「V+O+形容詞」の文の意味を理解することができる。
 - 2.3 「V+O+do [形容詞]」の文を使って、会話を完成させ、やり取りをすることができる。

2.2 語彙 (Vocabulary)

- ・デザインに関連する語彙をコミュニケーションにおいて使うことができる (発信語彙)。
名詞: guide, function, pattern, variety, relationship, appearance, pot, faucet, effect, crosswalk, crime, mayor, issue, satisfaction
動詞: connect, tempt, bump, improve
形容詞: various, attractive, similar, unique, unusual, universal, opposite
副詞: generally, immediately, normally, extremely
- ・上記の語彙に加え、次の語彙の意味を理解することができる (受容語彙)。
名詞: exhibition, combination, teapot, spout, theme, behavior, campaign, introduction, term
動詞: define, persist, address
形容詞: graphic, functional, understandable, diagonal, industrial
副詞: diagonally, subconsciously, significantly
- ・デザインに関連する語彙をネットワークとして整理し、意味を理解することができる。【VN】

2.3 慣用表現 (Formulas)

- ・次の慣用表現の意味を理解し、使うことができる。
機能表現: be concerned with...
文法構文表現: define A as B, What S is all about
句動詞: go on and on, start off, pour out..., turn on..., go into...
副詞表現: generally speaking, take a look at, as a result, in terms of...
動詞表現: come to mind, come in..., be tempted to do..., cut down on..., related to..., bring about...
形容詞表現: a variety of...

3. 5領域におけるタスク・ハンドリング (Task-Handling in Five Domains)

3.1 聞くこと (Listening Domain)

- ・本文に関する英文を聞き、正誤を判断することができる。【R&R-1】

3.2 読むこと (Reading Domain)

- ・事実 (fact) を正確に捉えて読むことができる。【CC】
- ・場面ごとの状況や説明内容を読み取ることができる。
- ・理解が難しい箇所を、文脈や背景知識を活用して推測しながら読むことができる。

3.3 話すこと (発表) (Spoken Production Domain)

- ・本文の内容を理解し、RECAP SHEET を完成させ、発表することができる。【R&R-2】
- ・RECAP SHEET を用いながら、自分の言葉で本文内の良かったところを共有できる。【R&R-3】

<ul style="list-style-type: none"> 自分のデザインのアイデアをグループ内で共有できる。【MIY-2】
3.4 話すこと（やり取り）（Spoken Interaction Domain） <ul style="list-style-type: none"> Think-Pair-Share の問いに対して自分の言葉で意見を述べながら、短い会話を行うことができる。【TPS】 発表をするアイデアを英語で議論し合い、1つ選出することができる。【MIY-3】
3.5 書くこと（Writing Domain） <ul style="list-style-type: none"> 自分のデザインのアイデアを考え、英語で表現できる。【MIY-1】 デザインに関する語句を理解しながら、穴埋めを行うことができる。【VN】
3.6 領域統合（Integrated Domains） <ul style="list-style-type: none"> 自身のオリジナルデザインについてグループで協働してディスカッションを行い、魅力的なアイデアを選出することができる。【MIY-2, 3】
4. 学習への向き合い方と学習管理（Attitude & Learning Management）
<ul style="list-style-type: none"> 教師の発問に対して積極的に反応している。 授業中に大きな声で気持ちを込めて音読をしている。 本課で学習した文法や語彙・慣用表現を、コミュニケーションにおいて積極的に活用しようとしている。 デザインに関連する語彙や慣用表現を自分で調べ、ネットワークの充実化を図っている。 本課の新出語彙・表現を繰り返し読んだり書いたりして、定着を図っている。 本課の全文を10回以上音読している。【通読用本文】 ペアワークやグループワークに積極的に参加し、責任をもって自分の役割を果たしている。 授業の振り返り（リフレクション）を行い、学習の成果と課題を明確にしている。 PDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクルを通して計画的に学習を進めている。 疑問点を放置せず、先生に質問をしたり、学習書を活用したりして解決している。

略語: GC = Grammar for Communication; VN = Vocabulary Networking, MIY = Make It Yours; R&R = Recap & Retell; CC = Comprehension Check; TPS = Think-Pair-Share, SSP= Skills for Sound Production

Chapter 3 Plastic Is Everywhere (pp. 36-49) CAN-DO リスト

1. 内容理解 (Content Construction)

- ・プラスチックが何に使われているのかを理解できる。【Part 1】
- ・プラスチックが及ぼす被害について考察できる。【Part 1, 2】
- ・プラスチックのリサイクルの現状について理解できる。【Part 2】
- ・マイクロプラスチックが及ぼす被害について理解できる。【Part 3】
- ・プラスチック汚染問題を解決する手段を理解できる。【Part 4】
- ・「後世に地球を残す」ということについて考えることができる。【Part 4】
- ・本文の内容を理解し、RECAP SHEET を完成させることができる。【R&R-2】

2. 言語リソース (Language Resources)

2.1 文法 (Grammar)

- ・現在完了形(have + *done*), 現在完了進行形(have been + *doing*) 【GC-1】
 - 1.1 現在完了形・現在完了進行形の機能を理解し、それらが用いられた文の意味を理解することができる。
 - 1.2 現在完了形・現在完了進行形を適切に使って、イラストの内容を表すことができる。
- ・受動態(be + *done*) 【GC-2】
 - 2.1 受動態がどのような役割を持つかを理解し、それが用いられている文の意味を理解することができる。
 - 2.2 受動態を適切に使って、スピーチの原稿を作成することができる。

2.2 語彙 (Vocabulary)

- ・次の語彙をコミュニケーションにおいて使うことができる (発信語彙)。
名詞: ocean, canal, tip, waste, trash, race, ecosystem, chemical, amount, substance, threat, pollution, ancestor, material, planet
動詞: cause, breathe, invent, rot, drift, threaten, tend, attract, reduce, encourage, remove
形容詞: serious, tiny
前置詞: unlike
数詞: billion, ton
- ・上記の語彙に加え、次の語彙の意味を理解することができる (受容語彙)。
名詞: container, iceberg, landfill, device, packaging, environment, microplastic, saying, wrapper, descendant, responsibility
動詞: circulate, inherit
形容詞: environmental, remaining, unexpected, poisonous
副詞: once
数詞: millimeter

2.3 慣用表現 (Formulas)

- ・次の慣用表現の意味を理解し、使うことができる。
機能表現: The problem is that...
副詞表現: around the world, so far, such as...
動詞表現: keep *doing*, tend to *do*
形容詞表現: more than..., for the better,
文法構文表現: be made of..., range from A to B, either A or B, break A into B, as...as possible, keep A out of B, ... to come
句動詞: throw away...

3. 5領域におけるタスク・ハンドリング (Task-Handling in Five Domains)

3.1 聞くこと (Listening Domain)

- ・本文に関する英文を聞き、正誤を判断することができる。【R&R-1】

3.2 読むこと (Reading Domain)

- ・事実 (fact) を正確に捉えて、読むことができる。【CC】
- ・場面ごとの情報を正確に読み取ることができる。
- ・理解が難しい箇所を、文脈や背景知識を活用して推測しながら読むことができる。

3.3 話すこと (発表) (Spoken Production Domain)

- ・本文の内容を理解し、RECAP SHEET を完成させ、発表することができる。【R&R-2】
- ・RECAP SHEET を用いながら、自分の言葉で本文内の良かったところを共有できる。【R&R-3】
- ・プラスチック汚染問題の解決に役立つポスターを作成し、発表することができる。【MIY-3】

<p>3.4 話すこと（やり取り）(Spoken Interaction Domain)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Think-Pair-Share の問いに対して自分の言葉で意見を述べながら、短い会話を行うことができる。【TPS】
<p>3.5 書くこと (Writing Domain)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポスターに必要な題材を考え、英語で表現できる。【MIY-1】 ・ 水質汚染に関する語句を理解しながら、穴埋めを行うことができる。【VN】
<p>3.6 領域統合 (Integrated Domains)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プラスチック問題について解決策や改善案を提示し、ポスターを用いて魅力的なアイデアを選出することができる。【MIY-1, 2, 3】
<p>4. 学習への向き合い方と学習管理 (Attitude & Learning Management)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の発問に対して積極的に反応している。 ・ 授業中に大きな声で気持ちを込めて音読をしている。 ・ 本課で学習した文法や語彙・慣用表現を、コミュニケーションにおいて積極的に活用しようとしている。 ・ プラスチック問題・環境問題に関連する語彙や慣用表現を自分で調べ、ネットワークの充実化を図っている。 ・ 本課の新出語彙・表現を繰り返し読んだり書いたりして、定着を図っている。 ・ 本課の全文を 10 回以上音読している。【通読用本文】 ・ ペアワークやグループワークに積極的に参加し、責任をもって自分の役割を果たしている。 ・ 授業の振り返り（リフレクション）を行い、学習の成果と課題を明確にしている。 ・ PDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルを通して計画的に学習を進めている。 ・ 疑問点を放置せず、先生に質問をしたり、学習書を活用したりして解決している。

略語: GC = Grammar for Communication; VN = Vocabulary Networking, MIY = Make It Yours; R&R = Recap & Retell; CC = Comprehension Check; TPS = Think-Pair-Share

Chapter 4 OriHime – A Vehicle of Your Heart (pp. 50-65) CAN-DO リスト

1. 内容理解 (Content Construction)

- ・吉藤氏がどのような思いでオリヒメの開発に至ったのかを理解することができる。【Part 1】
- ・オリヒメの仕様や機能について理解することができる。【Part 1, 3】
- ・難病を患い、病院の外に出ることができない少年の想いを共感的に読み取ることができる。【Part 2】
- ・さまざまな理由で孤独に苦しんでいる人々にとって、オリヒメとはどのような存在であるかを理解することができる。【Part 3】
- ・オリヒメの開発プロジェクトに参画することにより、番田氏の人生がどのように変化したのかを共感的に読み取ることができる。【Part 4】
- ・オリヒメのプロジェクトを推進していく上で、何が吉藤氏の原動力になっているのかを理解することができる。【Part 4】
- ・本文の内容を理解し、RECAP SHEET を完成させることができる。【R&R-2】

2. 言語リソース (Language Resources)

2.1 文法 (Grammar)

- ・関係代名詞 *who, which, that* 【GC-1】
 - 1.1 関係代名詞 *who, which, that* の機能を理解し、それらが用いられた文の意味を理解することができる。
 - 1.2 関係代名詞 *who, which, that* を適切に使って、有名な人のことを書くことができる。
- ・過去完了形(*had + done*)、過去完了進行形(*had been + doing*) 【GC-2】
 - 2.1 過去完了形、過去完了進行形がどのような時間関係を表すのかを理解し、それらが用いられている文の意味を理解することができる。
 - 2.2 過去完了形、過去完了進行形を適切に使って新聞記事を完成させることができる。

2.2 語彙 (Vocabulary)

- ・次の語彙をコミュニケーションにおいて使うことができる (発信語彙)。
名詞: *vehicle, robot, bond, belonging, illness, emotion, mask, expression, audience, quality*
代名詞: *whatever*
動詞: *suffer, establish, attend, enable, overcome, mention, recall*
形容詞: *previous, unable, physical, blank, online, missing, silent, severe, valuable*
副詞: *anytime, importantly*
接続詞: *neither*
- ・上記の語彙に加え、次の語彙の意味を理解することができる (受容語彙)。
名詞: *communicator, loneliness, creator, shatter, sadness, extension, project, co-developer, suggestion, improvement*
動詞: *associate, maintain, perceive, transport, click, face*
形容詞: *indispensable*
副詞: *likewise*
- ・ロボットに関連する語彙をネットワークとして整理し、意味を理解することができる。【VN】

2.3 慣用表現 (Formulas)

- ・次の慣用表現の意味を理解し、使うことができる。
機能表現: *wonder if ...*
副詞表現: *in order to do, all the time, ever since ...*
動詞表現: *suffer from ..., ring a bell, be associated with ..., share A with B, go well*
形容詞表現: *a number of ...*
文法構文表現: *neither A nor B, every time S+V, as long as S+V*
句動詞: *point out ..., pass away, figure out*

3. 5領域におけるタスク・ハンドリング (Task-Handling in Five Domains)

3.1 聞くこと (Listening Domain)

- ・本文に関する英文を聞き、正誤を判断することができる。【R&R-1】

3.2 読むこと (Reading Domain)

- ・事実 (fact) を正確に捉えて読むことができる。【CC】
- ・場面ごとの登場人物の気持ちを共感的に読み取ることができる。
- ・理解が難しい箇所を、文脈や背景知識を活用して推測しながら読むことができる。

<p>3.3 話すこと（発表）（Spoken Production Domain）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容を理解し、RECAP SHEET を完成させ、発表することができる。【R&R-2】 ・RECAP SHEET を用いながら、自分の言葉で本文内の良かったところを共有できる。【R&R-3】 ・オリヒメの活用法について英語でスライドやポスターを作成し、発表することができる。【MIY-3】
<p>3.4 話すこと（やり取り）（Spoken Interaction Domain）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Think-Pair-Share の問いに対して自分の言葉で意見を述べながら、短い会話を行うことができる。【TPS】
<p>3.5 書くこと（Writing Domain）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリヒメに関する質問に対して適切な答えを書くことができる。【MIY-1】 ・オリヒメの活用法について英語でポスターを制作することができる。【MIY-2】 ・ロボットに関する語句を理解しながら、穴埋めを行うことができる。【VN】
<p>3.6 領域統合（Integrated Domains）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリヒメの活用法についてグループで協働してディスカッションを行い、魅力的な提案をまとめることができる。【MIY-3】
<p>4. 学習への向き合い方と学習管理（Attitude & Learning Management）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・教師の発問に対して積極的に反応している。 ・授業中に大きな声で気持ちを込めて音読をしている。 ・本課で学習した文法や語彙・慣用表現を、コミュニケーションにおいて積極的に活用しようとしている。 ・ロボットに関連する語彙や慣用表現を自分で調べ、ネットワークの充実化を図っている。 ・本課の新出語彙・表現を繰り返し読んだり書いたりして、定着を図っている。 ・本課の全文を 10 回以上音読している。【通読用本文】 ・ペアワークやグループワークに積極的に参加し、責任をもって自分の役割を果たしている。 ・授業の振り返り（リフレクション）を行い、学習の成果と課題を明確にしている。 ・PDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクルを通して計画的に学習を進めている。 ・疑問点を放置せず、先生に質問をしたり、学習書を活用したりして解決している。

略語: GC = Grammar for Communication; VN = Vocabulary Networking, MIY = Make It Yours; R&R = Recap & Retell; CC = Comprehension Check; TPS = Think-Pair-Share

Chapter 5 Satoko and Nada (pp. 68-83) CAN-DO リスト

1. 内容理解 (Content Construction)

- ・ユペチカ氏とリオの関係性を把握できる。【Part 1】
- ・ユペチカ氏がどのような人なのかを理解できる。【Part 1】
- ・各漫画を通して、ユペチカ氏が読者に伝えたいことを理解できる。【Part1, 2, 3, 4】
- ・異なる文化を背景とする人々に接するときはその文化の代表者としてではなく、個人として捉える重要性を理解できる。【Part 2, 4】
- ・サトコとナダのキャラクターを理解できる。【Part 3】
- ・本文の内容を理解し、RECAP SHEET を完成させることができる。【R&R-2】

2. 言語リソース (Language Resources)

2.1 文法 (Grammar)

- ・to 不定詞(to do) 【GC-1】
 - 1.1 to 不定詞(to do)の機能を理解し、それが用いられた文の意味を理解することができる。
 - 1.2 to 不定詞(to do)を適切に使って、イラストの内容を表すことができる。
- ・動名詞(doing) 【GC-2】
 - 2.1 動名詞がどのような役割を持つかを理解し、それが用いられている文の意味を理解することができる。
 - 2.2 動名詞を適切に使って文を完成し、ペアで共有することができる。

2.2 語彙 (Vocabulary)

- ・次の語彙をコミュニケーションにおいて使うことができる (発信語彙)。
 - 名詞: series, media, personality, gap, impression, stereotype, prayer, comment
 - 動詞: illustrate, judge, avoid, describe, pray, embarrass, wrap, respect
 - 形容詞: modest, individual, uncomfortable, general
 - 副詞: instead
- ・上記の語彙に加え、次の語彙の意味を理解することができる (受容語彙)。
 - 名詞: Muslim, Islam, representative, roommate, reaction, aspect, diversity
 - 動詞: post
 - 形容詞: cross-cultural, considerate, intercultural
 - 副詞: naturally, humorously
 - 前置詞: despite
- ・文化や文化間交流に関連する語彙をネットワークとして整理し、意味を理解することができる。【VN】

2.3 慣用表現 (Formulas)

- ・次の慣用表現の意味を理解し、使うことができる。
 - 機能表現: I mean, It seems that ...
 - 文法構文表現: describe A as B, not A but B, what S is like
 - 句動詞: deal with ..., keep ... in mind
 - 副詞表現: in detail, in general, in turn, at first, over time
 - 動詞表現: go along with ..., play an important role in ..., wrap ... up
 - 形容詞表現: in the middle of ...

3. 5領域におけるタスク・ハンドリング (Task-Handling in Five Domains)

3.1 聞くこと (Listening Domain)

- ・本文に関する英文を聞き、正誤を判断することができる。【R&R-1】

3.2 読むこと (Reading Domain)

- ・事実 (fact) を正確に捉えて読むことができる。【CC】
- ・場面ごとの登場人物の気持ちを共感的に読み取ることができる。
- ・理解が難しい箇所を、文脈や背景知識を活用して推測しながら読むことができる。
- ・『おにぎり(A RICEBALL)』を読んで、内容を理解することができる。【MIY-1】

3.3 話すこと (発表) (Spoken Production Domain)

- ・本文の内容を理解し、RECAP SHEET を完成させ、発表することができる。【R&R-2】
- ・RECAP SHEET を用いながら、自分の言葉で本文内の良かったところを共有できる。【R&R-3】
- ・『おにぎり(A RICEBALL)』の翻訳をほかのグループと共有できる。【MIY-3】

3.4 話すこと (やりとり) (Spoken Interaction Domain)

- ・Think-Pair-Share の問いに対して自分の言葉で意見を述べながら、短い会話を行うことができる。【TPS】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 翻訳のアイデアをグループ内で議論し、1つ選出することができる。【MIY-1】
3.5 書くこと (Writing Domain) <ul style="list-style-type: none"> ・ 『おにぎり(A RICEBALL)』の文脈を考え、ナダのせりふを表現できる。【MIY-2】 ・ 『おにぎり(A RICEBALL)』を英語に翻訳することができる。【MIY-2】 ・ 文化に関する語句を理解しながら、穴埋めを行うことができる。【VN】
3.6 領域統合 (Integrated Domains) <ul style="list-style-type: none"> ・ 『おにぎり(A RICEBALL)』の翻訳をグループでディスカッションすることができる。【MIY-2, 3】
4. 学習への向き合い方と学習管理 (Attitude & Learning Management)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の発問に対して積極的に反応している。 ・ 授業中に大きな声で気持ちを込めて音読をしている。 ・ 本課で学習した文法や語彙・慣用表現を、コミュニケーションにおいて積極的に活用しようとしている。 ・ 文化に関連する語彙や慣用表現を自分で調べ、ネットワークの充実化を図っている。 ・ 本課の新出語彙・表現を繰り返し読んだり書いたりして、定着を図っている。 ・ 本課の全文を10回以上音読している。【通読用本文】 ・ ペアワークやグループワークに積極的に参加し、責任をもって自分の役割を果たしている。 ・ 授業の振り返り（リフレクション）を行い、学習の成果と課題を明確にしている。 ・ PDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルを通して計画的に学習を進めている。 ・ 疑問点を放置せず、先生に質問をしたり、学習書を活用したりして解決している。

略語: GC = Grammar for Communication; VN = Vocabulary Networking, MIY = Make It Yours; R&R = Recap & Retell; CC = Comprehension Check; TPS = Think-Pair-Share, SSP= Skills for Sound Production

Chapter 6 The Voice of Children (pp. 84-97) CAN-DO リスト

1. 内容理解 (Content Construction)

- ・『バラクナマ』の意味と構成員について理解できる。【Part 1】
- ・記事の内容について理解できる。【Part 2】
- ・『バラクナマ』が始まった経緯について把握できる。【Part 3】
- ・スラムの子どもたちが直面している現状を認識することができる。【Part 3, 4】
- ・『バラクナマ』の記者や編集者たちの使命を理解できる。【Part 4】
- ・ジョティの例を読んで、彼女が貧しい子供たちに望んでいることを理解できる。【Part 4】
- ・本文の内容を理解し、RECAP SHEET を完成させることができる。【R&R-2】

2. 言語リソース (Language Resources)

2.1 文法 (Grammar)

- ・現在分詞(名詞+ *doing*)・過去分詞(名詞+ *done*) 【GC-1】
 - 1.1 現在分詞(名詞+ *doing*)・過去分詞(名詞+ *done*)の機能を理解し、それらが用いられた文の意味を理解することができる。
 - 1.2 現在分詞(名詞+ *doing*)・過去分詞(名詞+ *done*)を適切に使って、イラストの内容を表すことができる。
- ・分詞構文 【GC-2】
 - 2.1 分詞構文がどのような役割を持つかを理解し、それが用いられている文の意味を理解することができる。
 - 2.2 分詞構文を適切に使って、週末の出来事を伝えることができる。

2.2 語彙 (Vocabulary)

- ・次の語彙をコミュニケーションにおいて使うことができる (発信語彙)。
名詞: journalist, editor, discussion, basement, article, neighborhood, border, shame, participant, railroad, mission, fellow
動詞: force, respond, beat, aim, propose
形容詞: monthly, involved, challenging, eager, needy, typical
副詞: mainly
関係詞: whenever
- ・上記の語彙に加え、次の語彙の意味を理解することができる (受容語彙)。
名詞: maid, slum, conference, disappointment, challenging, awareness
動詞: last, board, commit, excel, recruit
形容詞: editorial, substantial, mainstream
副詞: originally, completely
- ・記事・貧困に関連する語彙をネットワークとして整理し、意味を理解することができる。【VN】

2.3 慣用表現 (Formulas)

- ・次の慣用表現の意味を理解し、使うことができる。
機能表現: That is how ..., in the hope that ...
句動詞: used to *do*, go on, be made up of ...
副詞表現: to some degree, to one's disappointment, not ... at all
動詞表現: manage to *do*, be involved in ..., excel in ..., train O to *do*, catch O *doing*, have an impact on ..., be eager to *do*, come to *do*, aim to *do*

3. 5領域におけるタスク・ハンドリング (Task-Handling in Five Domains)

3.1 聞くこと (Listening Domain)

- ・本文に関する英文を聞き、正誤を判断することができる。【R&R-1】

3.2 読むこと (Reading Domain)

- ・事実 (fact) を正確に捉えて読むことができる。【CC】
- ・場面ごとの登場人物の気持ちを共感的に読み取ることができる。
- ・理解が難しい箇所を、文脈や背景知識を活用して推測しながら読むことができる。

3.3 話すこと (発表) (Spoken Production Domain)

- ・本文の内容を理解し、RECAP SHEET を完成させ、発表することができる。【R&R-2】
- ・RECAP SHEET を用いながら、自分の言葉で本文内の良かったところを共有できる。【R&R-3】
- ・自分で書いた原稿をクラスの前で発表することができる。【MIY-3】

3.4 話すこと (やり取り) (Spoken Interaction Domain)

- ・Think-Pair-Share の問いに対して自分の言葉で意見を述べながら、短い会話を行うことができる。(TPS)

<ul style="list-style-type: none"> 発表をするアイデアを英語で議論し合い、1つ選出することができる。【MIY-1】
3.5 書くこと (Writing Domain) <ul style="list-style-type: none"> 自分でアイデアを考え、英語で各イラストについて表現できる。【MIY-1】 自分の記事のアイデアを文章にすることができる。【MIY-2】 メディアに関する語句を理解しながら、穴埋めを行うことができる。【VN】
3.6 領域統合 (Integrated Domains) <ul style="list-style-type: none"> イラストで示した出来事の内容を適切な英語を使って記事を作成し、発表することができる。【MIY-2, 3】
4. 学習への向き合い方と学習管理 (Attitude & Learning Management)
<ul style="list-style-type: none"> 教師の発問に対して積極的に反応している。 授業中に大きな声で気持ちを込めて音読をしている。 本課で学習した文法や語彙・慣用表現を、コミュニケーションにおいて積極的に活用しようとしている。 子どもの貧困問題に関連する語彙や慣用表現を自分で調べ、ネットワークの充実化を図っている。 本課の新出語彙・表現を繰り返し読んだり書いたりして、定着を図っている。 本課の全文を10回以上音読している。【通読用本文】 ペアワークやグループワークに積極的に参加し、責任をもって自分の役割を果たしている。 授業の振り返り（リフレクション）を行い、学習の成果と課題を明確にしている。 PDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルを通して計画的に学習を進めている。 疑問点を放置せず、先生に質問をしたり、学習書を活用したりして解決している。

略語: GC = Grammar for Communication; VN = Vocabulary Networking, MIY = Make It Yours; R&R = Recap & Retell; CC = Comprehension Check; TPS = Think-Pair-Share, SSP= Skills for Sound Production

Chapter 7 Human Habitation on Mars (pp. 100-113) CAN-DO リスト

1. 内容理解 (Content Construction)

- ・火星について人が過去にどう考えていたのかを理解できる。【Part 1】
- ・想像されていた宇宙人の描写を読んで、その姿をイメージできる。【Part 1】
- ・火星における人類の発見について理解できる。【Part 2】
- ・火星探査機キュリオシティが持つ意味と、その功績を理解できる。【Part 2】
- ・火星に建築物を建てるためのアイデアについて理解できる。【Part 3】
- ・人類がなぜ宇宙探査に時間とお金を費やすのかを考えることができる。【Part 3, 4】
- ・宇宙探査が人類に与える影響を知ることができる。【Part 4】

2. 言語リソース (Language Resources)

2.1 文法 (Grammar)

- ・助動詞(can, may, must) 【GC-1】
 - 1.1 助動詞の機能を理解し、それらが用いられた文の意味を理解することができる。
 - 1.2 助動詞を適切に使って、イラストの内容を表すことができる。
- ・関係代名詞の非制限用法(~, which / who ...) 【GC-2】
 - 2.1 関係代名詞の非制限用法がどのような役割を持つかを理解し、それらが用いられている文の意味を理解することができる。
 - 2.2 関係代名詞の非制限用法を適切に使って、法隆寺について説明する会話を完成させることができる。

2.2 語彙 (Vocabulary)

- ・次の語彙をコミュニケーションにおいて使うことができる (発信語彙)。
名詞: being, telescope, surface, octopus, gravity, decade, desert, horizon, discovery, possibility, curiosity, dirt, exploration, origin, Venus, atmosphere, clue
動詞: travel, stretch, contain, imply, supply, benefit, reveal, average
形容詞: intelligent, thin, complex, remarkable, solid, outer, nearby, global, artificial, practical
前置詞: beyond
接続詞: whether
- ・上記の語彙に加え、次の一般的な語彙の意味を理解することができる (受容語彙)。
名詞: habitation, Mars, astronomer, Martian, spacecraft, probe, rover, nickname, analysis, facility, construction, architect, equipment, printer, carbon, dioxide, Celsius, invention, spin-off, necessity, contribution
動詞: construct
形容詞: reddish, unfrozen, organic, underground
副詞: further
- ・宇宙・宇宙探査に関連する語彙をネットワークとして整理し、意味を理解することができる。【VN】

2.3 慣用表現 (Formulas)

- ・次の慣用表現の意味を理解し、使うことができる。
機能表現: No one knows ...
動詞表現: make a contribution to ..., lead to ...
形容詞表現: thousands of ..., a large amount of ..., out of ...
前置詞表現: due to ...

3. 5領域におけるタスク・ハンドリング (Task-Handling in Five Domains)

3.1 聞くこと (Listening Domain)

- ・本文に関する英文を聞き、正誤を判断することができる。【R&R-1】

3.2 読むこと (Reading Domain)

- ・事実 (fact) を正確に捉えて読むことができる。【CC】
- ・理解が難しい箇所を、文脈や背景知識を活用して推測しながら読むことができる。
- ・宇宙に関する情報を読んで、内容を理解する。【MIY-2】

3.3 話すこと (発表) (Spoken Production Domain)

- ・本文の内容を理解し、RECAP SHEET を完成させ、発表することができる。【R&R-2】
- ・RECAP SHEET を用いながら、自分の言葉で本文内の良かったところを共有できる。【R&R-3】
- ・宇宙旅行についての自分の意見をクラスメイトと共有できる。【MIY-1】

<p>3.4 話すこと（やり取り）(Spoken Interaction Domain)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Think-Pair-Share の問いに対して自分の言葉で意見を述べながら，短い会話を行うことができる。(TPS)
<p>3.5 書くこと (Writing Domain)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が宇宙に行きたいかそうでないかの意見とその理由を英語で表現できる。【MIY-3】 ・ 宇宙に関する語句を理解しながら，穴埋めを行うことができる。【VN】
<p>3.6 領域統合 (Integrated Domains)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宇宙旅行についての自分の意見を，与えられた情報をヒントに理由も含めて書くことができる。【MIY-1, 2, 3】
<p>4. 学習への向き合い方と学習管理 (Attitude & Learning Management)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の発問に対して積極的に反応している。 ・ 授業中に大きな声で気持ちを込めて音読をしている。 ・ 本課で学習した文法や語彙・慣用表現を，コミュニケーションにおいて積極的に活用しようとしている。 ・ 宇宙に関連する語彙や慣用表現を自分で調べ，ネットワークの充実化を図っている。 ・ 本課の新出語彙・表現を繰り返し読んだり書いたりして，定着を図っている。 ・ 本課の全文を 10 回以上音読している。【通読用本文】 ・ 授業の振り返り（リフレクション）を行い，学習の成果と課題を明確にしている。 ・ PDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルを通して計画的に学習を進めている。 ・ 疑問点を放置せず，先生に質問をしたり，学習書を活用したりして解決している。

略語: GC = Grammar for Communication; VN = Vocabulary Networking, MIY = Make It Yours; R&R = Recap & Retell; CC = Comprehension Check; TPS = Think-Pair-Share, SSP= Skills for Sound Production

Chapter 8 A Loving Story (pp. 114-127) CAN-DO リスト

1. 内容理解 (Content Construction)

- ・登場人物とその関係性を理解できる。【Part 1, 2】
- ・ラビング夫妻がヴァージニアから出ていくことになった理由を理解できる。【Part 1】
- ・ラビング夫妻がヴァージニアに帰ろうと決意した経緯を理解できる。【Part 2】
- ・コーエン氏がなぜラビング夫妻に協力するようになったのかを理解できる。【Part 2】
- ・ナレーションの内容を理解できる。【Part 3, 4】
- ・ラビング夫妻が公に声を発信した理由と、当時の社会の風潮を把握できる。【Part 3】
- ・登場人物の気持ちを理解できる。【Part 4】

2. 言語リソース (Language Resources)

2.1 文法 (Grammar)

- ・関係副詞(when / where) 【GC-1】
 - 1.1 関係副詞(when / where)の機能を理解し、それらが用いられた文の意味を理解することができる。
 - 1.2 関係副詞(when / where)を適切に使って、イラストの内容を表すことができる。
- ・関係代名詞の what 【GC-2】
 - 2.1 関係代名詞 what がどのような役割を持つかを理解し、それが用いられている文の意味を理解することができる。
 - 2.2 関係代名詞 what を適切に使って、やり取りをすることができる。

2.2 語彙 (Vocabulary)

- ・次の語彙をコミュニケーションにおいて使うことができる (発信語彙)。
名詞: marriage, sir, decision, jail, builder, following, relative, march
動詞: bang, arrest, tremble
形容詞: equal
代名詞: somebody, racial
副詞: suddenly, fortunately, tightly, happily
- ・上記の語彙に加え、次の語彙の意味を理解することができる (受容語彙)。
名詞: attorney, injustice, restroom, judge, purity, ma'am, justice, constitution
形容詞: loving, illegal, legal, well-known, supreme
副詞: accidentally, legally
- ・人種差別に関連する語彙をネットワークとして整理し、意味を理解することができる。【VN】

2.3 慣用表現 (Formulas)

- ・次の慣用表現の意味を理解し、使うことができる。
機能表現: Why don't you *do*?
文法構文表現: too ... to *do*
句動詞: turn down ..., hand down ...
副詞表現: for free, for a moment, at last
動詞表現: fast asleep, make a decision, have a difficulty in *doing*, make up someone's mind, stand up for ..., speak out against ..., change one's mind
形容詞表現: millions of ...
前置詞表現: because of ...

3. 5領域におけるタスク・ハンドリング (Task-Handling in Five Domains)

3.1 聞くこと (Listening Domain)

- ・本文に関する英文を聞き、正誤を判断することができる。【R&R-1】

3.2 読むこと (Reading Domain)

- ・事実 (fact) を正確に捉えて読むことができる。【CC】
- ・場面ごとの登場人物の気持ちを共感的に読み取ることができる。
- ・理解が難しい箇所を、文脈や背景知識を活用して推測しながら読むことができる。

3.3 話すこと (発表) (Spoken Production Domain)

- ・本文の内容を理解し、RECAP SHEET を完成させ、発表することができる。【R&R-2】
- ・RECAP SHEET を用いながら、自分の言葉で本文内の良かったところを共有できる。【R&R-3】
- ・登場人物になりきり、劇を演じることができる。【MIY-4】

<p>3.4 話すこと（やりとり）(Spoken Interaction Domain)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Think-Pair-Share の問いに対して自分の言葉で意見を述べながら，短い会話を行うことができる。(TPS) ・ 演じる役柄をグループ内で英語で議論できる。【MIY-1, 2】
<p>3.5 書くこと (Writing Domain)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 演じる役の原稿を書き上げることができる。【MIY-3】 ・ 法律・裁判に関する語句を理解しながら，穴埋めを行うことができる。【VN】
<p>3.6 領域統合 (Integrated Domains)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで役割分担を決め，自身のパートの責任を持ち，最後まで演じることができる。【MIY-1, 2, 3, 4】
<p>4. 学習への向き合い方と学習管理 (Attitude & Learning Management)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の発問に対して積極的に反応している。 ・ 授業中に大きな声で気持ちを込めて音読をしている。 ・ 本課で学習した文法や語彙・慣用表現を，コミュニケーションにおいて積極的に活用しようとしている。 ・ 人種差別に関連する語彙や慣用表現を自分で調べ，ネットワークの充実化を図っている。 ・ 本課の新出語彙・表現を繰り返し読んだり書いたりして，定着を図っている。 ・ 本課の全文を 10 回以上音読している。【通読用本文】 ・ ペアワークやグループワーク，演劇に積極的に参加し，責任をもって自分の役割を果たしている。 ・ 授業の振り返り（リフレクション）を行い，学習の成果と課題を明確にしている。 ・ PDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルを通して計画的に学習を進めている。 ・ 疑問点を放置せず，先生に質問をしたり，学習書を活用したりして解決している。

略語: GC = Grammar for Communication; VN = Vocabulary Networking, MIY = Make It Yours; R&R = Recap & Retell; CC = Comprehension Check; TPS = Think-Pair-Share, SSP= Skills for Sound Production

Chapter 9 Edo, the Resilient City (pp. 130-145) CAN-DO リスト

1. 内容理解 (Content Construction)

- ・「絵は一枚で千語に匹敵する」という英語の格言の意味を理解できる。【Part 1, 2, 3, 4】
- ・江戸が栄えた理由が分かる。【Part 1】
- ・「明暦の大火」で江戸がどうなったのかを理解できる。【Part 1】
- ・「明暦の大火」後に徳川将軍がとった政策を理解できる。【Part 2, 3】
- ・江戸の人口が増えた経緯を理解できる。【Part 1, 2】
- ・「自助の精神」や町火消、浮世絵といった専門語の英語説明文を理解できる。【Part 3, 4】
- ・「明暦の大火」後の市民の活動について知ることができる。【Part 3】
- ・江戸っ子の生き方について理解できる。【Part 4】
- ・日本で生きるには災害と向き合わなければいけないことを理解できる。【Part 4】
- ・江戸の人たちが数多くの災害を乗り越える知恵を教えてくれていることを理解できる。【Part 4】

2. 言語リソース (Language Resources)

2.1 文法 (Grammar)

- ・仮定法過去・仮定法過去完了【GC-1】
 - 1.1 仮定法過去・仮定法過去完了の機能を理解し、それらが用いられた文の意味を理解することができる。
 - 1.2 仮定法過去・仮定法過去完了を適切に使って、質問に対する答えを作ることができる。
- ・as if+仮定法【GC-2】
 - 2.1 「as if+仮定法」を用いる際に時制がどうなるかを理解できる。
 - 2.2 「as if+仮定法」がどのような役割を持つかを理解し、それが用いられている文の意味を理解することができる。
 - 2.3 「as if+仮定法」を適切に使って、詩を書くことができる。

2.2 語彙 (Vocabulary)

- ・次の語彙をコミュニケーションにおいて使うことができる (発信語彙)。
名詞: population, percent, expansion, shelter, creation, damage, citizen, spirit, resident, victim, assistance, disaster
動詞: strike, drown, escape, crush, prevent, require, seek, organize, fascinate, occur, locate, rush, limit
形容詞: worth, enormous, sharp, generous
接続詞: thus
副詞: directly, rapidly, ironically, besides, frequently
- ・上記の語彙に加え、次の語彙の意味を理解することができる (受容語彙)。
名詞: explosion, ash, flame, shogunate, merchant, woodblock, earnings, resilience, reconstruction
動詞: revive, collapse, reconstruct, contribute, rebuild, flourish, depict, risk, house, matter
形容詞: resilient, resistant, voluntary, mutual
副詞: generously
- ・日本の歴史や文化に関連する語彙をネットワークとして整理し、意味を理解することができる。【VN】

2.3 慣用表現 (Formulas)

- ・次の慣用表現の意味を理解し、使うことができる。
句動詞: work out ..., call for ..., break out
副詞表現: what is called, ... to death, when needed, ... in need, at any time, time after time
動詞表現: set out to do, prevent from doing, make an effort, take pride in ..., believe in ..., come and go, succeed in ...

3. 5領域におけるタスク・ハンドリング (Task-Handling in Five Domains)

3.1 聞くこと (Listening Domain)

- ・本文に関する英文を聞き、正誤を判断することができる。【R&R-1】

3.2 読むこと (Reading Domain)

- ・事実 (fact) を正確に捉えて読むことができる。【CC】
- ・場面ごとの当時の江戸の人々の気持ちを読み取ることができる。
- ・理解が難しい箇所を、文脈や背景知識を活用して推測しながら読むことができる。

3.3 話すこと (発表) (Spoken Production Domain)

- ・本文の内容を理解し、RECAP SHEET を完成させ、発表することができる。【R&R-2】
- ・RECAP SHEET を用いながら、自分の言葉で本文内の良かったところを共有できる。【R&R-3】

<ul style="list-style-type: none"> ・自分で作成した旅程表をクラスの前で発表できる。【MIY-3】
3.4 話すこと（やり取り）（Spoken Interaction Domain） <ul style="list-style-type: none"> ・ Think-Pair-Share の問いに対して自分の言葉で意見を述べながら、短い会話を行うことができる。（TPS） ・ 発表されたアイデアを英語で議論し合い、最善案を1つ選出することができる。【MIY-3】
3.5 書くこと（Writing Domain） <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のアイデアを考え、英語で表現できる。【MIY-1,2】 ・ 災害に関する語句を理解しながら、穴埋めを行うことができる。【VN】
3.6 領域統合（Integrated Domains） <ul style="list-style-type: none"> ・ 交換留学生のリクエストに沿った旅程表を書き、グループで発表をして、最善策を一つ選出することができる。
4. 学習への向き合い方と学習管理（Attitude & Learning Management）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の発問に対して積極的に反応している。 ・ 授業中に大きな声で気持ちを込めて音読をしている。 ・ 本課で学習した文法や語彙・慣用表現を、コミュニケーションにおいて積極的に活用しようとしている。 ・ 日本の歴史や文化に関連する語彙や慣用表現を自分で調べ、ネットワークの充実化を図っている。 ・ 本課の新出語彙・表現を繰り返し読んだり書いたりして、定着を図っている。 ・ 本課の全文を10回以上音読している。【通読用本文】 ・ ペアワークやグループワークに積極的に参加し、責任をもって自分の役割を果たしている。 ・ 授業の振り返り（リフレクション）を行い、学習の成果と課題を明確にしている。 ・ PDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクルを通して計画的に学習を進めている。 ・ 疑問点を放置せず、先生に質問をしたり、学習書を活用したりして解決している。

略語: GC = Grammar for Communication; VN = Vocabulary Networking, MIY = Make It Yours; R&R = Recap & Retell; CC = Comprehension Check; TPS = Think-Pair-Share, SSP= Skills for Sound Production

Chapter 10 A Quality Education for All (pp. 146-159) CAN-DO リスト

1. 内容理解 (Content Construction)

- ・教育がなぜ重要なのかを理解できる。【Part 1, 2, 3, 4】
- ・教育を受けない・受けられない子どもたちがいることと、その理由を理解できる。【Part 1】
- ・マリー・ルイズさんの生い立ち・背景を把握できる。【Part 2, 3】
- ・ルワンダの内戦の状況をイメージできる。【Part 2】
- ・マリー・ルイズさんの活動を理解できる。【Part 3, 4】
- ・ウムチョムイーザ学園の特徴を理解できる。【Part 3, 4】
- ・学校給食の重要性を理解できる。【Part 4】

2. 言語リソース (Language Resources)

2.1 文法 (Grammar)

- ・動詞＋名詞＋that 節 [wh-節/ if 節] 【GC-1】
 - 1.1 「動詞＋名詞＋that 節 [wh-節/ if 節]」の機能を理解し、それらが用いられた文の意味を理解することができる。
 - 1.2 「動詞＋名詞＋that 節 [wh-節/ if 節]」を適切に用いて、イラストの内容を表すことができる。
- ・強調構文(It is ... that ~) 【GC-2】
 - 2.1 強調構文がどのような役割を持つかを理解し、それが用いられている文の意味を理解することができる。
 - 2.2 強調構文を適切に使って、自分で作った文のある部分を強調する文を作ることができる。

2.2 語彙 (Vocabulary)

- ・次の語彙をコミュニケーションにおいて使うことができる (発信語彙)。
名詞: poverty, program, refugee, disease, breast, violence, capital, kindergarten, president
動詞: link, recover, emphasize
形容詞: main, central, civil, particular
副詞: closely
- ・上記の語彙に加え、次の語彙の意味を理解することができる (受容語彙)。
名詞: weapon, United Nations, Rwanda, dressmaking, cholera, terror, organization, Kigali, checkup
動詞: grant, sponsor, flee, correct
形容詞: sub-Saharan, rather, ethnic, non-profit
副詞: proudly, smilingly
- ・教育, 戦争, SDGs に関連する語彙をネットワークとして整理し、意味を理解することができる。【VN】

2.3 慣用表現 (Formulas)

- ・次の慣用表現の意味を理解し、使うことができる。
機能表現: That is why ...
句動詞: set up ...
副詞表現: in short, at present, in particular
動詞表現: die from ..., stop ... from *doing*, take ... for granted
形容詞表現: a way out of ...

3. 5領域におけるタスク・ハンドリング (Task-Handling in Five Domains)

3.1 聞くこと (Listening Domain)

- ・本文に関する英文を聞き、正誤を判断することができる。【R&R-1】

3.2 読むこと (Reading Domain)

- ・事実 (fact) を正確に捉えて読むことができる。【CC】
- ・場面ごとのマリー・ルイズさんの気持ちを読み取ることができる。
- ・理解が難しい箇所を、文脈や背景知識を活用して推測しながら読むことができる。

3.3 話すこと (発表) (Spoken Production Domain)

- ・本文の内容を理解し、RECAP SHEET を完成させ、発表することができる。【R&R-2】
- ・RECAP SHEET を用いながら、自分の言葉で本文内の良かったところを共有できる。【R&R-3】
- ・グループで SDGs についてのポスターを作成し、理由を説明できるようにする。【MIY-4】

3.4 話すこと (やり取り) (Spoken Interaction Domain)

- ・Think-Pair-Share の問いに対して自分の言葉で意見を述べながら、短い会話を行うことができる。(TPS)
- ・SDGs についての自分の意見をグループ内でシェアできる。【MIY-3】

3.5 書くこと (Writing Domain)

- ・本文の内容を理解し、RECAP SHEET を完成させることができる。【R&R-2】
- ・SDGs で自身が重要だと思う項目の理由を英語で表現できる。【MIY-2】
- ・教育に関する語句を理解しながら、穴埋めを行うことができる。【VN】

3.6 領域統合 (Integrated Domains)

- ・SDGs について考え、自分たちができること・必要だと思うことをグループ内でポスターにし、発表できる。【MIY-1, 2, 3, 4】

4. 学習への向き合い方と学習管理 (Attitude & Learning Management)

- ・教師の発問に対して積極的に反応している。
- ・授業中に大きな声で気持ちを込めて音読をしている。
- ・本課で学習した文法や語彙・慣用表現を、コミュニケーションにおいて積極的に活用しようとしている。
- ・教育・戦争・SDGs に関連する語彙や慣用表現を自分で調べ、ネットワークの充実化を図っている。
- ・SDGs の 17 の目標を自分で調べ、その内容を理解している。
- ・本課の新出語彙・表現を繰り返し読んだり書いたりして、定着を図っている。
- ・本課の全文を 10 回以上音読している。【通読用本文】
- ・ペアワークやグループワークに積極的に参加し、責任をもって自分の役割を果たしている。
- ・授業の振り返り (リフレクション) を行い、学習の成果と課題を明確にしている。
- ・PDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルを通して計画的に学習を進めている。
- ・疑問点を放置せず、先生に質問をしたり、学習書を活用したりして解決している。

略語: GC = Grammar for Communication; VN = Vocabulary Networking, MIY = Make It Yours; R&R = Recap & Retell; CC = Comprehension Check; TPS = Think-Pair-Share, SSP= Skills for Sound Production

Reading Passage 1 The Window

1. 内容理解 (Content Construction)

- ・ 2人の男性の置かれた状況を把握できる。
- ・ 窓に近いベッドにいた男性が見ていた (描写していた) 景色をイメージできる。
- ・ もう1つのベッドに寝ていた男性の心情を考えることができる。
- ・ 男性が亡くなったあと、真実を知ったもうひとりの男性の心情を考えることができる。

2. 言語リソース (Language Resources)

2.1 語彙 (Vocabulary)

- ・ 次の語彙の意味を理解することができる。
名詞: fluid, lung, involvement, military service, landscape, skyline, attendant, prop, elbow
動詞: occupy, drain, broaden, enliven, overlook, grace, portray, sadden, switch, strain, face, compel
前置詞: amidst
形容詞: exquisite, picturesque, descriptive, lifeless, deceased, blind

2.3 慣用表現 (Formulas)

- ・ 次の慣用表現の意味を理解し、使うことができる。
副詞表現: on end, arm in arm, in one's sleep, for oneself
動詞表現: pass by, take ... away
文法的表現: where ~, only to find
句動詞: flat on one's back

3. 5領域におけるタスク・ハンドリング (Task-Handling in Five Domains)

3.1 聞くこと (Listening Domain)

- ・ 本文に関する英文を聞き、その内容を理解できる。

3.2 読むこと (Reading Domain)

- ・ 場面ごとの登場人物の気持ちを読み取ることができる。
- ・ 理解が難しい箇所を、文脈や背景知識を活用して推測しながら読むことができる。

3.3 話すこと (発表) (Spoken Production Domain)

- ・ 自分で作成した想像上のエピローグをクラスの前で発表できる。【AYR2-3】

3.4 話すこと (やり取り) (Spoken Interaction Domain)

- ・ 質問の答えについて、クラスメイトと意見交換できる。【AYR2-1】

3.5 書くこと (Writing Domain)

- ・ 本文の内容を理解し、自分の意見と想像上のエピローグを完成させることができる。【AYR2-2】

3.6 領域統合 (Integrated Domains)

- ・ 小説を読み、情景をイメージしながら読み進めることができる。

4. 学習への向き合い方と学習管理 (Attitude & Learning Management)

- ・ 教師の発問に対して積極的に反応している。
- ・ 授業中に大きな声で気持ちを込めて音読をしている。
- ・ 本課で学習した文法や語彙・慣用表現を、コミュニケーションにおいて積極的に活用しようとしている。
- ・ 小説における登場人物の視点に立てる・感情を汲み取ることができる。
- ・ 本課の新出語彙・表現を繰り返し読んだり書いたりして、定着を図っている。
- ・ 本課の全文を10回以上音読している。
- ・ ペアワークやグループワークに積極的に参加し、責任をもって自分の役割を果たしている。
- ・ 授業の振り返り (リフレクション) を行い、学習の成果と課題を明確にしている。
- ・ PDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルを通して計画的に学習を進めている。
- ・ 疑問点を放置せず、先生に質問をしたり、学習書を活用したりして解決している。

略語: AYR=After You Read

Reading Passage 2 The Tale of the Three Brothers

1. 内容理解 (Content Construction)

- ・ 3 人の兄弟の個性 (立場・性格等) を理解できる。
- ・ 〈死〉の目的を理解できる。
- ・ 3 つの秘宝の特長を抑えることができる。
- ・ 〈死〉と 3 兄弟のそれぞれの関係を把握できる。
- ・ 〈死〉の罠に落ちなかったのはだれなのか、また、その理由についても理解できる。

2. 言語リソース (Language Resources)

2.1 語彙 (Vocabulary)

- ・ 次の一般的な語彙の意味を理解することができる。
名詞: twilight, wand, duel, wizard, cloak, invisibility, destination, quarrel, inn, measure, amazement, delight, veil, longing
動詞: cheat, pretend, congratulate, evade, conquer, humiliate, proceed, boast, snatch, creep, slit, depart
形容詞: magical, treacherous, cunning, combative, arrogant, humble, invincible, sodden, mortal
副詞: forth, unwillingly, meanwhile, thrice, untimely

2.3 慣用表現 (Formulas)

- ・ 次の慣用表現の意味を理解し、使うことができる。
副詞表現: in due course, for good measure
形容詞表現: in existence
句動詞: hand over, stand aside, seek out

3. 5領域におけるタスク・ハンドリング (Task-Handling in Five Domains)

3.1 聞くこと (Listening Domain)

- ・ 本文に関する英文を聞き、その内容を理解できる。

3.2 読むこと (Reading Domain)

- ・ 場面ごとの情景や登場人物の気持ちを読み取ることができる。
- ・ 理解が難しい箇所を、文脈や背景知識を活用して推測しながら読むことができる。

3.3 話すこと (発表) (Spoken Production Domain)

- ・ 本文の内容を理解し、物語のレビューをグループ内で発表できる。【AYR 2-5】

3.4 話すこと (やりとり) (Spoken Interaction Domain)

- ・ 質問の答えについて、クラスメイトと意見交換できる。【AYR 2-2】

3.5 書くこと (Writing Domain)

- ・ 本文の内容を理解し、物語のレビューを完成させることができる。【AYR 2-4】

3.6 領域統合 (Integrated Domains)

- ・ 小説を読み、情景や登場人物たちの関係性をイメージしながら読み進めることができる。

4. 学習への向き合い方と学習管理 (Attitude & Learning Management)

- ・ 教師の発問に対して積極的に反応している。
- ・ 授業中に大きな声で気持ちを込めて音読をしている。
- ・ 本課で学習した文法や語彙・慣用表現を、コミュニケーションにおいて積極的に活用しようとしている。
- ・ 小説における登場人物の視点に立てる・感情を汲み取ることができる。
- ・ 本課の新出語彙・表現を繰り返し読んだり書いたりして、定着を図っている。
- ・ 本課の全文を 10 回以上音読している。
- ・ ペアワークやグループワークに積極的に参加し、責任をもって自分の役割を果たしている。
- ・ 授業の振り返り (リフレクション) を行い、学習の成果と課題を明確にしている。
- ・ PDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルを通して計画的に学習を進めている。
- ・ 疑問点を放置せず、先生に質問をしたり、学習書を活用したりして解決している。

略語: AYR=After You Read